

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	第3回 河内長野市観光振興計画策定委員会
2 開催日時	平成29年12月5日(火) 午前10時から
3 開催場所	市役所601会議室
4 会議の概要	(1) 河内長野市観光振興計画(素案)について (2) パブリックコメントの実施について (3) その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	なし
7 問い合わせ先	(担当課名) 環境経済部 産業観光課 (内線 479)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

第3回河内長野市観光振興計画策定委員会（平成29年12月5日） 議事要旨

【出席委員】

尾久土委員長、清水副委員長、上野委員、徳永委員、阪口委員、竹之内委員、阪谷委員、中島委員、尾之上委員、高橋委員

【出席事務局メンバー】

(市)：太口環境経済部長、尾西産業観光課長、森田産業観光課参事

長野産業観光課課長補佐兼係長、畑中産業観光課係長、西本産業観光課副主査

(コンサル)：株式会社 都市設計総合研究所 外山

1 開会

2 開会のあいさつ（尾久土委員長）

11月時点の官公庁の速報値として外国人観光客の増加と国内観光客の減少のデータが出ている。団塊の世代が後期高齢者となり遠方に出なくなる事を考えると、国内観光客の増加をシニア層に頼るのは難しい。一方で外国人観光客の15%が観光を目的として民泊を利用しており、国別ではシンガポール、フランス、インドネシア、オーストラリアが利用数の上位を占めている。民泊だと宿泊料が安いことから、7～6泊と多く宿泊しても買い物などに予算をまわせるため、そういう人がお金を落してくれる可能性がある。民泊の形態としては使わなくなった部屋に泊めるホスト型が多く、市民も観光に関わる要素として考えられるのではないかと思っている。それでは始めたいと思うが、本日の委員会で出た意見をまとめたものが市民や議会へパブリックコメントなどの形で公開されるので今回の議論がひとつの山場になると思っているのでよろしく願います。

3 議事

(1) 河内長野市観光振興計画（素案）について

事務局（市）： 資料に基づいて説明

委員長： 皆さんからご意見いただきたい。まずは第2章についてご意見を頂いて、その後第3章、第4章と、それぞれの課題を分けてご意見を頂きたい。気になった事、省かれたが復活して欲しい案などざっくばらんに意見交換して頂きたい。

委員： 南天苑の女将さんと従業員から聞いたが、外国人観光客は意外にも韓国人が多い。「爆買」の中国人とは違い韓国人はインターネットで自身の興味ある分野を調べて観光を楽しむため、河内長野の観光の渋い魅力が解ってもらえるのでは。観光案内も中国語ばかりでなく韓国語、もしくは若い人の85%が大卒者の韓国人をターゲットにするなら英語を用いても問題はないと思われる。

副委員長： 韓国と日本の間でLCCが劇的に増えている。河内長野の観光魅力は韓国人に

マッチするのではないか。ビザの緩和だけが要因になっているのではないと思う。そのほか資料の円グラフは文字を大きくしたり、グラフの対比はもっとわかりやすくしてはどうか。加えて、前の計画の振り返りについては評価が○△×だけなので○印のついた箇所は完結しているように感じてしまう。5段階くらいの評価にするなど伝え方や見せ方を、もう少し工夫できないかという点が気になった。

委員：南天苑の宿泊が増えているという事であるが、資料を見るとほとんど増えていない。河内長野としては天然温泉を推したいが、旅行会社に手数料を用意していないとなかなか利用してもらえない。宿泊、忘年会の場所を客に紹介する旅行会社の力は大きいのに河内長野市外に流れてしまう。今の形では宿泊客は伸びないのではないか。どこか旅館を誘致する等、なにかしていかないと増えないのが現状。

委員長：河内長野荘は観光協会などと連携があるのか。

委員：付き合いはある。河内長野荘も南天苑も観光協会の会員になっている。

委員：南天苑は少し価格が高く外国人観光客は宿泊するが、一般の人は行きにくい。個人で使いやすいのは河内長野荘が一番。だが旅行会社との協力が無く目立たない。宿泊客を増やしていくには、キャパもあるとは思いますがその辺の努力が必要だと思う。

事務局（市）：各旅館の経営方針としては、個人の旅行者をメインターゲットにされているのだと思われる。施設側の考え方によるところが大きい。ホテル誘致については、ここ数年動いてはいるが残念ながら・・・というのが現状。

委員：遠方の人が河内長野に来ると動きやすさから「なんば」で宿泊する。河内長野では泊まらない。温泉もあるし企業誘致などでも良いのでは。

委員：鉄道利用者数のところは、乗客数だけ、降車数だけとするほうが、どれだけの数が河内長野に来ているかが分かると思われる。直接、振興計画には反映されないと思うが、前回、外国人利用者の集計が出来ていないということでしたが、今後統計できるように民間施設に頼んではどうか。少し余談になるが、南海電鉄の高野山駅では駅の降り口に設置したホワイトボードに世界地図を書き、外国人観光客にどこから来たかをマグネットで印してもらおう。正確さには欠けるが、参考にしてはいる。外国人利用者の数を把握し、活かしていこうという意識を持って欲しい。

委員長：ビックデータなどを使えば統計数値は手に入るようになってきた。あとは分析にも入れていかなければいけない。鉄道利用客数は定期券使用者かどうかなどの観点も入れて見てみると良いのではと思う。

委員長：それではメインの課題となる第3章・第4章について意見を願います。

委員：目標指数の一人当たり使うお金は消費税10%で計算しているのか。

事務局（市）：消費税率を想定した数字ではない。目標額自体は今の全国平均が1万5千円な

ので、それをベースにしている。

委員長： たたき台が2万円だったのですが、圧倒的に日帰り客が多い現状では達成できないかな、という意味で全国平均を目標としました。

委員： 目標は大きい方がいいかな、と思う。観光客が何度も訪れたいくなるしくみの構築については、受け入れ側の体制も課題だと思う。

副委員長： 目標金額について何が根拠かを示しておいた方が良いと思う。

委員長： 目標達成できなければなにかペナルティはあるのか。

事務局(市)： 目標として現実的などところを見据えてはいるが、PDCAサイクルで進捗を確認し、分析しながら、近づけるように考えている。ペナルティはないのが現状だが、そういう事では施策が進まないということは意識している。

委員： 指標のところ、お客様目線で見たところの満足度を調べなくてよいのか。それは難しいのでしょうか。

事務局(市)： web アンケートの継続は予算面の課題もあるので検討する。

委員： 一番、気になったのは、この事業をするのにかかる予算のこと。計画ができたあとで予算を考えるということで認識しているがそれで正しいか。

委員長： この計画を作って、その裏付けをもって施策を作り、予算を要望していく流れになる。

委員： 交通インフラ・二次交通の充実の必要性について。河内長野市内の主な交通手段が「自家用車・レンタカー」「徒歩」が多くを占めている。河内長野市には観心寺や金剛寺など素晴らしい場所があり、ネットで発信しているが、いざ訪れたくても巡る手段がない。循環バスなどの整備がなければ徒歩では回れない。交通インフラの充実を進めてもらいたい。

委員： 観心寺から金剛寺に行きたいと思った時、乗り換えに便利な時刻表を設置するなどの交通手段の連携を考えていくべき。

委員： 施策としては挙げられているが、なにをどうするのかという全体が見えない。ポイントとなる事を上げていくのが一番、早いと思う。

委員： 観光ボランティアの経験で言うが、観心寺方面は比較的バスの本数があるが、金剛寺方面は少ないのが現実。あと感じているのは、道の駅 奥河内くろまるの郷を観光ハブ拠点にという部分だが、バスの本数が少ない。ハブにするには交通アクセスが良くないといけないのでもう少し手を打てば良いのではないか。

委員： 道の駅 奥河内くろまるの郷はいつ行っても車が停められないほどいっぱいの人気の場所だと感じている。

委員長： 交通手段は自動車为主体になっている。お寺に来ている人たちは高齢者で、自動車で来ていることが多い。運転できなくなった時に来れなくなる可能性が高い。可能であればインフラ整備が一番よいが相手のあることでなかなか難しい。

委員： ただ、今年の河内長野市の予算を見ると、観光面での予算はわずか。それをいかに有効に使うか。あまり無茶は言えない。

- 事務局（市）： 限られた予算の中で考えていくのが我々に課せられた課題だと思っている。ハブ拠点の話としては、「道の駅」と「鉄道の駅」と2つのハブ拠点で考えていければと思っている。また周遊バスもしくは循環バスも引き続きしていきたい。
- 委員： 河内長野へはハイキングに来る人が多いように思う。交通の整備も重要だが、歩いて観光に行ける場所のPRも必要だと思う。
- 委員： 観光案内所で感じるのは金剛山へ河内長野駅からバス行く方が多い。また外国人も増えている印象がある。
- 委員長： 海外から来られるバックパッカーはこちらが考えている以上に歩いて行動する。歩く観光への整備として、地図や案内板などを考えられたら良いと思う。
- 副委員長： 観光案内所は河内長野の顔となる部分。充実していくことは大事だと思う。また、財源の事は気になっていたが、市の予算だけでは難しくても、大阪府や観光庁などの事業も計画的にうまく活用すればよいと思う。あと、主な取り組みにおける役割を4つ挙げているが、観光関連事業者と観光関連団体という分類は市内に限って言えばもう少し詳しく書くことも出来るのではないかと思う。具体的にどのような事業者が当てはまるかを意識していると次に進みやすい。全体として計画を進めていくうえで優先順位付けは必要。計画自体に盛り込めなくても、多くの課題やそれに伴う施策を考える中で予算面・人材面など含めて計画的に進めていく方法を頭に入れておくほうがよい。
- 事務局（市）： 優先順位は考えていて、今までの反省から、受け身ではなく積極的な情報発信を行うことや、来て頂いた方にトイレなどの環境整備を整えていくことが優先的な部分だと思っている。さらに、その柱の中でどういう優先順位を付けて取り組んでいくのかはニーズ調査をして把握していかなければと思っています。
- 副委員長： わかりました。計画の中で現れていなくても、実際の動きの中で考えて進めてもらいたい。
- 事務局（市）： 計画を進めていく中においては、国などの補助金・交付金の動きも影響してくるかと思う。そういう情報は把握するように努めたい。
- 委員長： 観光関連事業者の部分で、国の考えた広い意味での基準としては鉄道・飲食・小売業も含まれるが、河内長野に存在する観光事業としては感覚が異なるので省いた。この計画で考える観光事業者は狭い意味での事業者になると思うが、どのようなところになるのだろうか。
- 委員： 商工会などの地元の事業者が稼いでいく仕組みが必要。観光を進めていくうえでそんな団体を巻き込んでいるところは多い。
- 委員長： もしかすると国における観光事業者の広い分類を見せて、事業者に自分たちも観光事業者だという意識を持って頂いた方がいいのかもしれない。
- 委員： 何が観光に生きてくるかは分からない。大きな企業や工場でも工場見学などがひとつのコンテンツになったりする。
- 委員長： 時間のこともあるので第5章に移ります。どういう体制・スケジュールで進め

るか。例えば、計画をP D C Aで回していく時に外部委員を用いるということは想定しているか。

事務局（市）： 計画本文中には行政だけで進めるのではなく有識者の意見を頂き推進を図るという表現をしているが、現時点で会議体を設けるということについては検討としたい。

委 員： 計画のP D C Aの結果を把握する時の目標が抽象的で、「評価する」「検討する」という表現がほとんど。その結果をどうとらえるかが問題なので、結果が把握できるような具体性が欲しい。

委 員 長： 今、国レベルでの計画などには数値目標の設定が要求されている。それぞれの取り組み内容に年度の具体的な目標をつくる必要があるのでは。

事務局（市）： 市の事業として取り組んでいく段階では、指標を持たせて事業評価をすることとなっている。その中でおっしゃって頂いた事をクリアしていればと考えている。

事務局（市）： P D C Aサイクルを回す事業の各達成度は明確に測らないといけない。数値化できるもの、できないものの区別はあるが、毎年の評価はしていこうと考えている。

委 員： この委員会に市商店連合会・市商工会が呼ばれている理由は市内産業の活性化、地元にお金が落ちることのためだと思う。河内長野駅前の観光案内所で観光客に観光案内をしていると思うが、その中で飲食店などの紹介をどうしているのか。団体間での連携が必要だと思う。外部団体だけでなく、道の駅 奥河内くろまろの郷の活用策など市の部署間でも連携を密にしてほしい。そのほか、河内長野に電車で来た人、車で来た人それぞれに、どういうコースが効率よく観光できるかを発信したり、「ちかくて、ふかい 奥河内というプロモーションをより前面に出してイメージ戦略を進めるべきだと思う。

委 員 長： この計画のなかにある河内長野市がめざす姿として「集客と消費を高める観光まちづくり」としているが、このキャッチコピーについてご意見いただきたい。

委 員： 消費という面では、南天苑で聞いた話だか、宿泊客が河内長野駅に行くと店が閉まっていて、どこを歩いたらいいかわからないという声を聴くとのこと。観光協会でも可能であれば案内できる店舗をP Rして欲しいと思う。

委 員： 地域の人は自然豊かで空気のおいしい河内長野の良さが分からず当然と思っているが、外から来た人は感動する。玄関口である河内長野駅で良さをP Rすればどうか。

委 員： 案内所で飲食店などを案内できる手ごろなパンフレットがあればいいと思う。

委 員： ハブ拠点となる場所で無料 wi-fi を整備してアプリを配信してはどうか。

事務局（市）： 観光案内所と道の駅 奥河内くろまろの郷には無料 wi-fi を整備しているが、アプリまでは作れていない状況である。

委 員： やはり周遊するアクセスが悪く遠方への案内が出来ない。良くなれば案内でき

る場所も増えると思う。

委員 長 : 今日出た以外の意見があれば、是非事務局に挙げて頂きたい。

～一同了承～

(2) パブリックコメントの実施について

事務局(市) : 資料に基づいて説明

委員 長 : 今週中に事務局に意見を出していただければ、パブリックコメントの案の中に反映できる。作成したパブリックコメント案は委員へ連絡してほしい。その後、年明けにパブリックコメントを実施して、市民から出た意見をまとめて報告をお願いしたい。

事務局(市) : 並行して、2月中旬頃、市議会に案を報告する予定。その後、2月下旬から3月初旬にかけて第4回目の策定委員会をお願いしたい。そこで出した案を踏まえて3月下旬の最終の計画作成に向けて進みたいと考えている。

委員 長 : スケジュールに関してなにもなければ、このように進みたいと思う。

～一同了承～

(3) その他の議案

事務局(市) : 本日予定していた議題は以上です。

委員 長 : 少し駆け足になったが本日の議案は全て終了した。本日頂いた意見を基にパブリックコメントの案をさらに固めていきたいと思うのでよろしく願います。

4 閉会のあいさつ(太口環境経済部長)

～閉会～